

## 第252回地質調査所研究発表会

### 「最新地質図発表会」を終えて

土谷 信之<sup>1)</sup>・宮地 良典<sup>1)</sup>

平成9年8月22日に、平成9年度の地質調査所の最新地質図発表会が開催された。この発表会では、5万分の1地質図幅が5枚、20万分の1地質図幅が3枚のほか、火山地質図、鉱物資源図、重力図、炭田図、Heat Flow Map of East and Southeast Asia、東・東南アジア地域地熱地質図が各1枚展示された。さらに、数値地質図として、200万分の1東・東南アジア数値地質図と理科年表読本として出版された100万分の1日本地質図が展示発表された。

今回の発表も昨年と同じく、地質標本館の相談日と合わせて、夏休み終盤の8月22日金曜日に行った。午前中は見学者が続けて来場し、順調な出だしと思われた。例年来場される人もいて、昼の説明会ではかなり専門的に突っ込んだ質問もあり、手応えを感じた。しかし、午後からは、来場者は少なくなり、3時以降はほとんどなくなった。最終的には、今回の見学者は60人足らずであった。同じ日の地質標本館夏休み相談会でも昨年より参加者が減少したとのことである。昨年の地質図発表会は工業技術院全体の統一公開日に合わせて行われ、予想をはるかに上回る多数の見学者が来所した。これに対して、今回の地質図発表会が、7月に繰り上げられた統一公開日の後に行われたため、既に統一公開を見学した人々をもう一度地質調査所に向かせる動機付けが乏しくなったためと考えられる。また、午後に見学者が少なくなってしまうことも懸念される。

今回発表した新作地質図類のなかに関東地方周辺の地質図類が乏しく、九州や東北・北海道の地質図類を主としていたことも、参加者の減少につながると考えられた。そのため、事前の準備段階では、関東地域の地質図の幾つかを再展示したり、

つくば市や、東京周辺の地質関連の博物館や民間企業などへ多数の宣伝パンフレットを送ったりした。

発表の手法については昨年より、多くの改善が見られた。昨年に比べ、発表地質図が少なかったにも関わらず、発表する地質図だけでなく、それに加えて写真、サンプル、説明図が多数展示されていた。これにより具体的な興味を引き起こすことができたと思う。また、パソコンを使った展示には見学者の多くが興味を示し、最も人気を集めた展示となった。説明時間は昨年同様昼休みの一時間程度としていたが、多くの発表者に協力をいただいてその前後にも自主的に説明していただいた。御協力を感謝したい。

新作地質図発表会へより多くの人々を迎えるためには、発表会を工業技術院の統一公開日に合わせて行えば、昨年のような見学者の増加が見込まれる。しかし、統一公開日が7月下旬に行われると、7月までに全ての地質図類を展示するための準備が十分整わない。その時期は地質図の発表者が野外調査に出ていることが多い、などの問題がある。

この発表会でも来場者にアンケートをお願いし、そのうち28名が回答していただいた。そのうち男性が20名であった。アンケートでは、興味を持った展示、展示や説明への要望、地質調査所の地質図類の利用度、地質図類への希望などについて質問した。回答者の内訳は地質コンサルタント、国立研究所及び学生がそれぞれ5名ずつでもっとも多く、教師、地質以外の民間企業からの見学者がそれに次いだ。年齢は40代から60代までの、やや高齢の人が多く、昨年に比べて若い人が少なくなった。この最新地質図発表会を何で知りましたかということについて、たまたま来所してという人が最も多かったが、学術雑誌、ダイレクトメール及びポスターを見

1) 地質調査所 地質部

キーワード: 地質図

てという人がそれに次いだ。筆者の一人も発表会前に千葉県の某博物館で、この発表会の宣伝ポスターを見て、ここの見学者が一人ぐらい発表会に来ないかと思ったものである。

展示物について興味を持たれたものは、100万分の1日本地質図や東南アジア数値地質図のCD-ROM版で、コンピュータに触れながらの見学は多くの人の興味を集めた。また、那須火山や、特別展示の関東地方の20万分の1地質図幅を集成したものの、5万分の1の真壁及び石岡の展示にも人気があ

った。やはり、地元に近い地域の地質図には関心が高く、今後の発表会でも地元志向の展示をする必要性を感じた。見学者は地質図を見るだけでなく、写真や岩石サンプルなどを触れるを通して、関心を深めたと思われる。見学者からの地質図類についての要望は、全国の地質図の整備、隣接地域との色の統一、応用地質の情報の拡充が望まれていた。今後、地質図を作る私たちもこれらの意見を生かしていきたい。

### 火山地質図・鉱物資源図・炭田地質図・重力図・数値地質図

|   |   |  |
|---|---|--|
| 3万分の1<br>那須火山<br>地質図<br>¥2,100                                | 那須火山は教科書でお馴染みの代表的な活火山で、首都圏から多数の観光客が訪れる。那須火山は西暦1410年頃の噴火では死者180名余りの被害をもたらした。最高峰の茶臼岳では今も活発に白い蒸気を出し続けている。約50万年前から活動を始め、5つの火山体を形成し、南東側に火砕流や岩屑などれの堆積物を広く形成した。                                    | 山元孝広・<br>伴 雅雄                                |
| 50万分の1<br>鉱物資源図<br>北海道西部<br>・東部<br>各¥6,800                    | 平成9年から新シリーズの発行が始まりました。全国8枚の図面が20世紀中に発行される予定です。専門家だけでなく、一般の方々にも利用していただける資源図を目指しています。どんな情報が盛り込まれているか、どんな風に読むか、楽しい使い方を提案します。   | 成田英吉・矢島淳吉・太田英順・渡辺章・羽坂俊一・羽坂なな子・平野英雄・須藤定久      |
| 5万分の1<br>天草炭田<br>地質図<br>¥6,800                                | 天草下島地域は、我が国唯一の古第三紀無煙炭(天草無煙炭)の産地。この地質図は単なる石炭鉱床の記載だけでなく、下島地域の開発や環境保全の基礎資料として地元への貢献が期待される。筆頭著者の死を乗り越え、15年振りに刊行された炭田図シリーズの力作。   | 高井保明・<br>防城俊厚・<br>原田種成                       |
| 20万分の1<br>渡島地域<br>重力図<br>¥1,700                               | 高密度岩体の構造を把握する目的で発刊してきた重力図シリーズはno.8となり、東北・関東地域をカバーし、北海道に至ることになった。本重力図からは渡島半島の地表に散在する高密度岩体の連続性を明瞭に読み取ることが出来る。   | 広島俊男・<br>牧野雅彦・<br>村田泰章・<br>森尻理恵・<br>駒澤正夫     |
| Heat Flow<br>Map of East<br>and South-<br>east Asia<br>¥2,200 | 500万分の1縮尺の広域地球物理マップとして、東南アジア各国・中国・韓国・日本及びその周辺海域で測定された地殻熱流量データを編集しカラー海底地形陰影図上にその分布を示した。現在の地下温度場の大局的傾向が表されている。  | 地質調査所・<br>東・東南アジア沿岸<br>地球科学計画調整<br>委員会(CCOP) |
| 東・東南アジ<br>ア数値地質図<br>CD-ROM版<br>¥2,500                         | 地質調査所とCCOP(東・東南アジア沿岸地球科学計画調整委員会)が共同で推進した数値地球科学図作成プロジェクトの第1弾としてCD-ROM出版された。200万分の1縮尺で統一凡例のもとに原図を編纂し、数値化した。   | 東・東南アジア沿岸<br>地球科学計画調整<br>委員会(CCOP)・<br>地質調査所 |
| コンピュータ<br>グラフィック<br>ス日本列島の<br>地質<br>¥12,000                   | 日本列島の地質とその成立をダイナミックに解説。日本各地の特徴ある地質構造をグラフィックスで表現し、付録のCD-ROMには本書に納められているグラフィックスを「スライド・ショー」として収録、また地質図に数多くのデータを重ねて解説するシステム「GeomapJ」、震源分布図や断面図に表示して特徴を示すシステム「SeisWin」が収録され高度な地質・地震情報が手軽に活用できます。 | 地質調査所監修・<br>日本列島の地質編<br>集委員会編                |

5万分の1地質図幅

|                                |   |   |
|--------------------------------|---|---|
| <p>岩ヶ崎<br/>¥4,300</p>          | <p>松尾芭蕉が奥の細道で平泉から鳴子温泉に向かう途中でこの岩ヶ崎地域を歩いた。ここは主に新第三紀の火山岩や堆積岩が分布し、これを25万年前以降の大規模火砕流堆積物や火山灰が広く覆っている。1987年までは本邦有数の細倉鉱山が稼行していたが、最近では日本最古の50万年前の石器が発見され、原人が生活していた所として注目された。</p> | <p>土谷信之・<br/>伊藤順一・<br/>関 陽児・<br/>巖谷敏光</p> |
| <p>倉橋島及び<br/>柱島<br/>¥2,900</p> | <p>安芸の宮島に近い瀬戸内海東部の多数の島からなる風光明媚な地域である。ほとんどの島々は白亜紀後期の花崗岩類からなり、領家変成岩を貫いている。この花崗岩類の一部は国会議事堂の外装用石材として使われ、議院石とも呼ばれている。所々白っぽい花崗岩を貫く黒っぽい岩脈は中新世の高マグネシア安山岩である。</p>                | <p>松浦浩久</p>                               |
| <p>姫 島<br/>¥2,900</p>          | <p>国東半島の沖合いにある姫島は、瀬戸内海西縁に浮かぶ唯一の第四紀火山である。更新世前-中期の堆積岩類を基盤として、約30万年前に形成された溶岩ドームやリング状火砕丘などの珪長質単成火山群から構成される。溶岩の一部は黒曜石石器として、九州北部から瀬戸内西部で使用された。</p>                            | <p>伊藤順一・<br/>星住英夫・<br/>巖谷敏光</p>           |
| <p>大 分<br/>¥3,800</p>          | <p>別府湾に面した大分市の周辺は、九州有数の工業地域である。それと同時に、その北西の別府市は湯の街として名高い日本屈指の観光都市でもある。この地域は、丘陵部を中心に第四紀の堆積物が分布し、正断層で階段状に変形している。また、別府湾には多くの海底活断層が分布し、1596年には有名な瓜生島沈没をもたらした大地震が発生している。</p> | <p>吉岡敏和・<br/>星住英夫・<br/>宮崎一博</p>           |
| <p>宮 原<br/>¥4,500</p>          | <p>1995年に噴火した九重火山の溶岩ドーム群と阿蘇カルデラの北壁を含む、第四紀(200万年前以降)の火山地帯。阿蘇・九重の両火山から出た火砕流堆積物は互層して分布し、宮原(みやのはる)の由来はこれらの火砕流台地の原っぱに建立された小国両神社にちなむ。風光明媚、温泉に入って地熱発電所を見学してはいかが?</p>           | <p>鎌田浩毅</p>                               |

20万分の1地質図幅

|                       |  |   |
|-----------------------|--|---|
| <p>唐 津<br/>¥2,100</p> | <p>20万分の1「唐津」には、中生代花崗岩類及び古第三紀-中新世堆積岩を覆って新第三紀から第四紀にかけてのアルカリ玄武岩を主体とする火山岩類が広く分布している。この図幅は、1959年に発行された地質図を多くの放射年代をもとにして、火山岩類の時空分布を改訂した。</p>  | <p>松井和典・<br/>宇都浩三</p>                     |
| <p>鹿児島<br/>¥2,400</p> | <p>20万分の1「鹿児島」には、桜島及び霧島という九州を代表する活火山が含まれ、大量の新第三紀-第四紀火山岩類が分布する。また、それらに覆われて中生界の秩父帯及び四万十帯が南北方向に帯状配列する。本図幅では、大量の放射年代をもとに、岩相対比を中心とした従来の新第三紀-第四紀火山岩類の層序を、年代区分を正しく反映したものへと改善した。</p>                         | <p>宇都浩三・<br/>阪口圭一・<br/>奥村公男・<br/>寺岡易司</p> |
| <p>宮 崎<br/>¥2,500</p> | <p>本地域には白亜紀-新第三紀初めの四万十帯付加コンプレックスとそれを覆う新第三紀前弧海盆堆積物の宮崎層群が分布し、それらを約25,000年前に鹿児島湾奥の始良カルデラから噴出した入戸火砕流堆積物が広く覆っている。四万十帯付加コンプレックスでは低角の衝上断層によって古いものほど上位に積み重なる地質構造が見事である。本図幅は10万分の1程度の精度でも実用に耐えるよう作成されている。</p> | <p>斎藤 眞・<br/>阪口圭一・<br/>駒澤正夫</p>           |